

初期研修プログラム

診療科名： 消化器内科

必ず習得するアウトカム

1. 消化器内科医としての基本姿勢
2. 消化器主要疾患に関する診断・治療の基本
3. 一般臨床医としての態度

研修目的

消化器疾患の病態を理解し、診断および治療計画を立案することが可能な知識を習得するとともに患者満足度の高い診療を目指す姿勢を体得する。

研修目標

◇ 一般目標

消化器内科臨床に必要な基本的知識、主要疾患に関する診断・治療の基本的技術を学ぶ。また、消化器疾患と他臓器疾患との関連を十分考慮した診療態度を習得し、あわせて救急の事態発生にも直ちに対応できる技術および態度を習得する。さらに、患者およびその家族、さらに病院スタッフと良好な関係を構築し患者満足度の高い医療を提供できることを目指す。

◇ 行動目標

- 1) 病棟診療：入院患者の診察、検査を行い、治療方針が決定でき、一部の治療が実際にできる。
- 2) 外来診療：外来患者の診察、検査を行い、応急処置ができる。
- 3) 検査：検査の原理を理解した上で、適切に検査を選択実行し、その結果を正しく解釈できる。
- 4) 一般臨床医に求められる基本手技を理解し、正確に実施できる。
- 5) 消化器内科医として下記の症状・病態を経験する。
 - 腹痛
 - 発熱、全身倦怠感
 - 嘔気・嘔吐、食欲不振
 - 嚥下困難
 - 体重減少
 - 便通異常（下痢・便秘）
 - 黄疸
- 6) 消化器内科医として下記の病態の診断・初期治療に参加する。
 - 急性腹症
 - 消化管出血
- 7) 消化器内科医として指導医とともに入院患者の診療にあたる。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技(経験可能な数)

検査

- 一般尿検査 (50)
- 便検査 (潜血・虫卵) (20)
- 血液型判定・交差適合試験 (30)

心電図 (50)
動脈血ガス分析 (10)
血液生化学検査 (50)
ウイルス学的検査 (30)
免疫学的検査 (30)
一般細菌検査 (20)
上部および下部消化管内視鏡検査 (100)
腹部超音波検査 (100)
胸腹部単純 X 線検査 (100)
上部および下部消化管 X 線透視検査 (20)
腹部 X 線 CT 検査 (50)
腹部 MRI 検査 (30)
腹部血管造影検査 (10)

疾患

食道 (マロリーワイス症候群、食道静脈瘤、食道癌など) (計 10)
胃・十二指腸 (消化性潰瘍、胃癌など) (計 50)
大腸 (炎症性腸疾患、大腸癌など) (計 50)
肝 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変症、肝細胞癌など) (計 30)
胆道 (胆嚢・胆管結石症、急性胆嚢炎、胆道癌など) (計 10)
膵 (急性膵炎、慢性膵炎、膵癌など) (計 10)

手技

注射法 (皮内・皮下・筋肉・点滴・静脈確保・中心静脈確保) (計 50)
採血法 (静脈血・動脈血) (計 50)
局所麻酔法 (計 10)
胃管の挿入・管理 (計 10)
腹腔穿刺 (計 10)
イレウスチューブ挿入と管理 (計 10)
ドレナージチューブの管理 (計 10)

研修方略

・検査、手技は、指導医の指導下で血管穿刺用ダミー、内視鏡検査用ダミーなど用いた練習で基本操作を習得した上で、主に入院患者を対象に検査、手技を経験する。
・医療面接法、診察手技はロールプレイング、シミュレーションの後、実際に指導医が行っている診療を見学し、自らも可能となるよう努力する。
・検査、診断、治療方針については、指導医とともに診療に携わり共に方針を立案する。病棟、外来において指導医とともに回診を行うことや、病状説明に同席することにより、患者やその家族、さらに医療スタッフとの良好な関係の築き方を学ぶ。
・各種カンファレンスで、消化器疾患の理解と診断・治療計画を学習する。

研修評価

・医療面接法、診察手技、検査・治療法の原理の理解についての評価は研修期間中に適宜指導医が観察評価し研修医に伝え、研修医はその評価を研修に生かすよう努力する。
・経験すべき症状・疾患については研修終了時にレポート提出により評価する。
・メディカルスタッフおよび患者による研修医評価、研修医による指導体制ならびに指導医評価も終了時に行う。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	外来診療 上下部内視鏡	病棟回診	新入院カンファレンス
火	外来診療 上下部内視鏡	上下部治療内視鏡	
水	外来診療 上下部内視鏡 胆膵超音波内視鏡	上部治療内視鏡 膵胆道造影	
木	外来診療 上下部内視鏡	上下部治療内視鏡	術後病理カンファレンス（隔週）
金	外来診療 上下部内視鏡	病棟回診	内視鏡カンファレンス、術前カンファレンス

（表は、適宜加除修正ください。）

指導責任者および指導医

指導責任者： 佐藤 賢一（消化器内科科長）

指導医： 目黒 敬義

〃： 廣田 衛久

〃： 高須 充子

〃： 小暮 高之

〃： 遠藤 克哉

学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ ~~参加不可~~

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導医とともに経験した症例についてのまとめを研修医発表会、さらに貴重な症例は学会などに積極的に発表させる。発表のための文献検索、スライド作製などの具体的な作業を含め複数の指導医が発表のための指導を行う。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

4名/1クール